

●表紙イラスト
葉 祥明

表紙のこぼ

毎年夏になると、父親を除いて、家族全員で1週間程海に行ったものです。質素な海辺の旅館の6畳間に、皆でゴロ寝の日々です。しかし、朝の海辺の心地良さ、雄大な入道雲、壮麗な夕焼空、遠浅の浜での貝ほり、岩場の水溜りでの小魚すくい。故郷の夏のイメージとして、今も強く心に残っています。今回の絵は、そんな故郷の海と、大好きな地中海が溶け合って生まれました。

●シーン'89 撮影
長野良市

熊本市江津湖湖畔に完成した公衆トイレ。「くまもとアートポリス'92」の参加プロジェクト第一号の建物です。江津湖に新しい風景を見せていました。

編 集 後 記

佐賀県の吉野ヶ里ブーム以来、古代史熱はまだまだ続いているようです。熊本県は特に古墳など遺跡が多く発掘されているところ。夏休みを利用して遺跡巡りなどしてみるのも一興かも知れません。学生さんだったら夏休みの宿題なんかはどうですか。

「くまもとの風」もおかげさまで100号を迎えることができました。もっともっとたくさんの県民の皆さんに、新鮮でさわやかな風を送り続けていきたいと思えます。これまで同様かわいがってください。よろしくお願ひします。

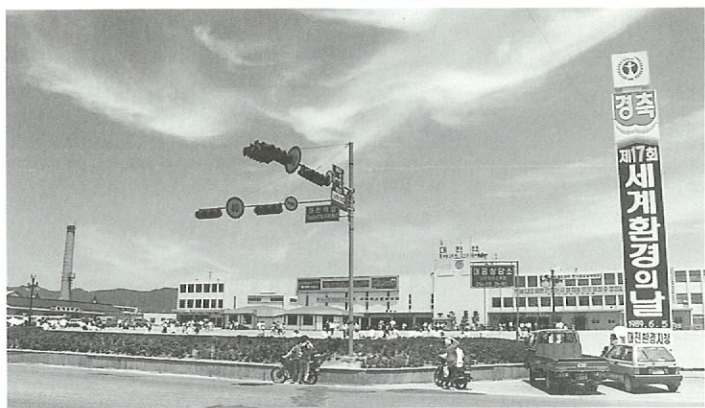
「くまもとの風」愛読者募集

本誌の年間購読を希望される方は、1年分の郵送料1,500円(250円×6回)分の切手を同封のうえ、下記へお申し込み下さい。(随時受け付けます)

〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号
熊本県広報課「くまもとの風」係
▲096-382-9780

C O N T E N T S

1-2	風のコンパス—100のターゲット—
3-6	特集—くまもと100—
7-8	びーぶる—鎌田功さん—
9-10	ステップ・アップKUMAMOTO —熊本県農業研究センター—
11-12	ふるさと紀行—宮原町—
13-14	シーン'89
15-16	ママさんレポート—テクノリサーチパーク—
17-18	30minutes—キング—リヌル—さん—
19-20	ウォッチング元氣図鑑 —上益城V白鷲—
21-22	HISTORY OF 熊本—北里柴三郎—
23-24	INFORMATION
25-26	街角便り 他



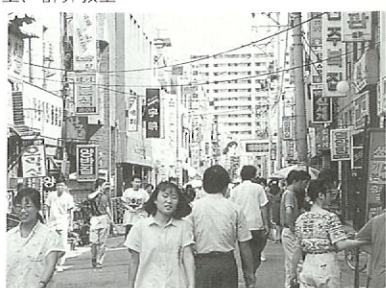
「オンニ、カッチノルジャバ(お姉さん、一緒に遊ぼう)」。3才の娘は今日もこう叫んで、子供達の遊びの輪の中に入って行く。幼児は三輪車、オンニ達はゴム飛びやローラースケート、オッパ(お兄さん)達はサッカーや野球に夢中で、夜の日時頃まで遊んでいる。まだ明るいうちは、子供の時間なのである。子供同士が打ち解けるのは早い。オンニ達は仲良しの「なっちゃん」の国、日本のことに興味津々で、遊びの合間に思いついたようにして、いつも娘のそばにいる私に色々なことを尋ねに来る。「日本の子供はおとなしいの? ローラースケートは日本にもあるの? 日本でもお米を食べるの?パンは?」という具合に。大人もそうだが、彼らは日本の生活をとても知りたがっている。また、日本人が韓国の人々とほとんど似たような生活をしているとは思っていない。だから、私の返事一つ一つに、目を丸くしてフーンとうなずく。



子供達が見つけた、韓国にあって日本にないものは、今のところは 馬(馬)だけ。この場合の馬は、アジョシ(おじさん)が童謡をガンガン鳴らして引いてくるリヤカーに備え付けられた木馬だ。これが来ると子供達は走り寄っていく。ここの子供達は誰も、馬に乗って大きくなる。そして、我が娘も、日本にはない馬に夢中だ。子供達は馬を指さし、「韓国には、いっぱいあるんだよ」と、嬉しそうに胸を張った。この子供達も、遊んでばかりいるわけではない。韓国では日本に負けず劣らず学歴がものを言うので、多くの親達は実に教育熱心。3才になると子供達は美術教室、文字教室、計算教室などに通う。通わずに、家で学習ドリルをする子もいる。幼稚園にしても、幼児にしっかり学習させる幼稚園が親達の評価を受ける。遊び場が広くて、勉強をさせず、ノビノビとした、私の希望どおりの幼稚園を見つけ出すのは至難の業なのである。というわけで、娘は渡韓後1か月が過ぎた今もどこにも通わず、ひとり1日遊びほうけている。

「어린이의 풍경」
子供

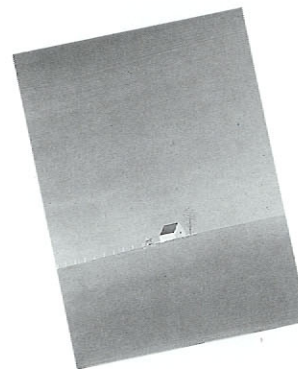
姜信子さん
フリーライター。ノンフィクション、ごく普通の在日韓国人として朝日ジャーナル賞受賞。熊本と韓国の交流推進のため、韓国・忠清南道庁に異職員として初めて派遣された夫とともに今年5月下旬に渡韓。



「南国のリゾートと協力隊」
富田章二(30才/フィジー国・青年海外協力隊員)



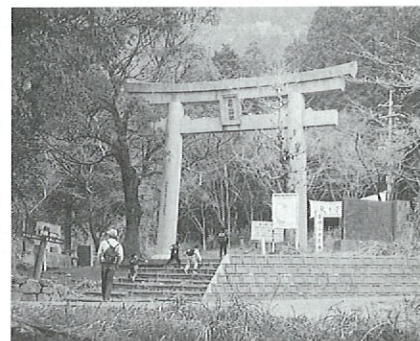
私の仕事場は、南太平洋の小島、フィジー国の主都スバ。政府の地方開発省に勤めています。フィジーは、ニューカレドニアと共に「南国の楽園」と日本人観光客に呼ばれている国です。総人口66万人の国に多くの人種が住み、それぞれの言葉を話しています。ここで暮らしてみると1つの言葉で生活している日本社会は日本人にとっては、よいものだと思います。言葉の中に文化があり、それを守ることができる。私達は今まで、相手の事(相手国)ばかりを知ろうと考えていました。が、自分達の文化を相手の人に知ってもらう事も重要だと思います。そんな中で、熊本県は「ホームステイ・カントリー熊本づくり」を目指しているとの事。これは開発途上国で生活する者にとって、心の底から賛成させられることです。私の任期も残り1年を切っていました。後悔しない様な協力活動をして帰るつもりです。



「金峰山に登って」
田中君代(アオ/熊本市)

先日、娘と友人と5人で久しぶりというか何年振りかで金峰山に登りました。朝7時に家を出て途中迄車で行き猿すべりを3分の2程登り残りは回り道をしながらゆっくり……頂上に着いたのが8時半。猿すべりを登る時は必死で、周囲の景色など見る余力はありませんでした。回り道を歩き出したら娘のおしゃべり「鳥の鳴き声がするネ」「木の緑がきれいネ」「風が冷たくて気持ちいいネ」「一寸この大きな石に座って休もうか……」。頂上でのおにぎりのおいしかった事。帰りは自動車道を自然観察したり歌ったりしながらゆっくり歩きました。7才の娘の初めての金峰山登山、回り道をして良かったと思いました。

これを読んでいる「あなた、も今一度金峰山に登ってみませんか。自然がそのまま残っています。頂上からの眺めは絶品です。そして快い汗がかけます。娘とも近々再び登ることを約束しました。



「私の表紙活用法」
K.I.(28才/合志町)

「KAZE」の表紙が変わりましたね。今までの「美人画」に負けず劣らず、葉祥明さんの自然の世界もいいものですね。それに2人共熊本出身の方というのも郷土の誇りです。私は今までの表紙は全部切りとって、壁に貼ったりして楽しんでいましたが、これからは大いに活用させて頂きたいと思っていますので従来通り表紙はスッキリと……よろしくお願いします。それから、私の町では竹の里づくりの一環として、竹道城跡公園に日本一の竹の種類を備えた竹園があります。皆様方、一度遊びに来て下さい。ホテルも飛びかう所ですよ。



みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を二百〜四百字程度にまとめてお送りください。(採用された方には「風テレホンカード」をプレゼント)

●あて先
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもとの風」係
☎(096)382-9780

たくさんのお便りをお待ちしています。

